

# 大軍拡の実態を学び

## 「今こそ平和の新婦人」

広島県本部

夏の参院選挙、秋の新婦人全国大会、そして今年には戦後・被爆80年の節目の年。「この大事な年に、どうやって仲間を広げていこうか?」との問いかけで話し合いました。

平和の仲間  
ふやしたい

「核兵器の問題も、  
県基地の問題もある。」



紙芝居を工夫して

「核兵器の問題も、  
県基地の問題もある。」

は、急速に進む大軍拡の実態(左)を学びました。

これだけでも驚きですが、さらに血液がO型の自衛隊員を集め、輸血用の血液を準備する部隊を創設、戦死者の対応に向けて冠婚葬祭業者と協定を結ぶなど、知れば知るほど、衝撃が走りました。

ここまでの  
きているのか

質疑応答では、三原

大平喜信さん(元衆院議員)を講師に、オンライン学習会「すすむ大軍拡準備」一学び、語り合い、みんなで止めよう!」を開催、13班から23人が参加しました。

衝撃の事実  
学習会で

- ・長距離ミサイル配備
- ・米軍と自衛隊のための新基地建設
- ・軍事研究の拡充
- ・「統合戦司令部」の設置で、自衛隊が米軍の指揮下に入り、実戦さながらの訓練
- ・民間の空港や港を次つぎ成立

### 主張

戦後・被爆80年の節目の年、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を人類と地球の未来のために」をテーマに原水爆禁止2025年世界大会が広島(8月5、6日)・長崎(8月8、9日)両会場を本大会として開催され、5日には「核兵器なくそう女性のつどい」もおこなわれます。新婦人もおこなわれます。新婦人は次世代の代表派遣を直接体験として位置づけ、交通費の一部をみらい基金より援助します。

今回、ホームページの被爆の実相を学べる特設ページに、初めての人も原水爆禁止世界大会が1

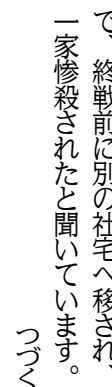
### 「新婦人に入って世界大会へ行こう!」次世代に呼びかけて

分でわかるイメージ動画を掲載しています。現地でもなことをするの、次世代が登壇する舞台や女性平和基金招待者、海外代表との交流などを紹介しながら、国内外から核兵器のない未来を願う人

世界大会を紹介すると「私も行きたい!」と2人も入会し、長崎大会への参加を決めています。埼玉の次世代チームら・じえむや茨城の次世代チームも、今年に入つて東京・夢の島の第五福竜丸展示館をそれぞれ子ども連れで訪問し、世界大会へ仲間を誘って参加しようという盛り上げています。

班での原爆の絵展や、署名行動でも次世代とつながり、仲間を迎えながら節目の年の原水爆禁止世界大会を成功させましょう。

動画はこちら



## 母の歴史

山口県 宝迫美穂子さんのお話(2)

1941年12月8日、いつも朝寝坊の私(1歳8カ月)が、早朝に目覚め「ラジオ(ラジオ)をつけろ」と騒ぎ、親を起こしたそうです。ラジオから流れてきたのは、軍艦マーチと真珠湾攻撃を伝えるアナウンサーの声でした。日本軍が米英に宣戦し、太平洋戦争が始まった日のエピソード。母から何度も聞かされ、記憶に刻まれました。暗号が解読されていて、米国は真珠湾攻撃が分かっていたという説もあります。



生後100日の宝迫さん

戦中とは言え「満洲」鞍山での暮らしは、3歳くらいまでは食べる物や衣類も何とかなり、日曜には教会へ通う穏やかな生活でした。女性は着物でモンペを作り、国防婦人会の活動をしていました。チャーチル(当時の英国の首相)やルーズベルト(当時の米国の大統領)の似顔絵を描いた鉄板をつるし、バケツリレーで水をかける訓練をしていました。ですが、母は病気が称して参加せず、「アメリカやイギリスに勝てるはずがない」と公言し、父ともめていました。玄關のガラスを割られたり、憲兵から調査されたという話も聞いています。

## 太平洋戦争が始まった

社宅には同年代の子どもが6、7人いて、男の子は「陸軍大將になる」、女の子は「従軍看護婦になる」と言っていました。その中の一人の男の子は留守を守る母で、終戦前に別の社宅へ移され、一家惨殺されたと聞いています。

つづく